

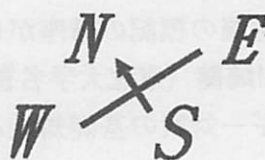
藤沢

2014年8月1日

第243号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主
な
事
記

- ・地球温暖化の真実
- ・大磯エネシフト見学
- ・じじいのひとつぶ ・放射能測定値

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

被爆国日本の果たす役割

久しぶりに藤沢で原爆展が開催された。今回は生協、全日本年金者組合、新日本婦人の会、原水協、被爆者の会など9団体でつくる「ピースリレー・ふじさわ」主催で、神奈川県内の被爆者が作成した詞画集「忘れられないあの日」のパネル展示、折り鶴や署名コーナーの設置、原爆をテーマにしたアニメや被爆者の証言のDVD上映、被爆者や戦争体験者のお話など組み合わせて3日間の開催であった。会場となったユーコープ（生協）の店頭展示のパネルも素通りする人が多く、立ち止まって見る人は残念ながら限られていた。中にはこんなことをしてもムダだという人もいてがっかりしたが、幼児2人を連れて熱心にパネルを見て署名し、心を込めて鶴を折ってくれた若いお母さんの姿に原爆展開催の意義を感じた。

藤沢市は1982年に、神奈川県は'84年に非核宣言をし、2001年までに神奈川県内すべての自治体で非核宣言をしている。日本全国では1789自治体のうち、1578の自治体で非核宣言をしているが、ここでも市民の署名が大きな役割を果たしている。国や政府任せにせず、市民や自治体レベルの運動が大切で、国連にうずたかく積み上げられた署名の山は私達の希望でもあり誇りでもある。

こうした市民の声が結集して大きな流れになっていくことは非核兵器地帯がアフリカ、南太平洋、東南アジア、ラテンアメリカなど世界中に広がっていることでも実証されている。北東アジアに非核地帯をつくるために被爆国日本の果たす役割は大きい。ところが自民党石破幹事長の「核をつくれるのはひとつの抑止力であり、それを放棄していいのか」の発言に代表されるように未だに核抑止論に立つ政府関係者。そして日本政府は4月に決定した武器輸出3原則の緩和により、米国にミサイル部品を輸出することを決めたが、この武器はイスラエルに渡ってパレスチナの人達を殺傷することになるかもしれない。さらには原発や武器のトップセールスをしている安倍首相。



日本が「死の商人」の仲間入りをしないように何とかしてこの流れを止めたいものだ。

島田啓子

鵠沼蓮池のハス
矢板氏提供

地球温暖化の真実 IPCC第5次報告とその後

藤沢エコネット主催の標記の講座が6月21日に行われた。講師は川崎健（東北大学名誉教授）さん、これからのエネルギー対策の基礎知識として学びました。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は世界気象機関（WMO）及び国連環境計画により1988年に設立された国連の組織であり、1990年に第1回の報告から温暖化の原因は温室効果ガスの増加による可能性が極めて高いと報告している。世界の平均気温は、ここ30年間で急激に上昇している。海洋の温暖化は、気候システムに蓄積されたエネルギーが高く、海水温が上昇している。表層だけでなく深層（3000m）での上昇は深刻な状況である。更に炭酸ガスの増加により海水の酸性化を引き起こしている。日本では短時間の強雨が増え、猛暑日も増えている。このままだと将来の世界平均気温は最大で4.8℃と予測している。

グリーンランドや北半球の氷は減少し続けている。南極の氷は西側のアムンゼン海で溶けだし、全部とけると3～4m水位が上昇するので恐ろしいこと、観測が難しいと学会の報告がある。今まで2℃が限界と言われてきた。

地球の気候には複数の安定状態（モード）があり、気候変動の原因となる要因の変化が、ある“しきい値”を超えると、モードジャンプを起こす可能性がある。（現在の気候が必ずしも絶対安定なものではなく、急激な地球温暖化に回答して、温暖なモードと寒冷なモードの間で変動を起こし別のモードへと急激にジャンプする。）

日本海の魚の変化については、イワシ、サバなど食べられる魚が減ってきており、ブリ、サワラなどは増えている。海の毒化も進んでおり、水銀、チッソやリンなどで汚染され、魚が食べる。養殖で育てた魚は捕った魚を餌にしている。

海水温の上昇を止めるには化石燃料を使わないことであるが安倍首相は原発ならCO₂を出さないと進める方向。河野太郎議員は太陽光発電をすすめている。原発に頼らないでも出来る方法がある。

エネルギーの地産地消はご当地エネルギーとも言い自治体が独自の政策を持ってエネルギーを賄う政策が求められている。（日比遥）

大磯エネシフト見学

昨年立ち上がった大磯エネシフトは、この春、飯田哲也氏や河野太郎氏等呼んで、キックオフミーティングを開催した。それに参加した会員の紹介で6月26日、大磯エネシフトを実地見学することになった。

快晴の中、案内された駅近くの第1号発電所はマンションの屋上にあり、狭く急な梯子をよじ登って太陽光発電を見学した。60枚のパネルで15KWを発電している。パネルは屋上いっぱいに広げられ、まぶしく輝いていた。そばに大きな魚の骨やバナナの皮が落ちている。聞いてみると、カラスが屋上で食べた残骸だそうだ。

パネルをきれいに拭く会員がいて、汚れがあると発電に影響があり、時々お掃除をしに来るそうだ。拭き掃除には必ず雨水を使い、水道水だとパネルが白く濁ってしまう。

発電全量を東電に売っていて、7～8年で元が回収できるという。資金は1口1万円で寄付を集めて運営をしている。

見学後、話し合いの場を持った。きっかけは東日本大震災の2011年で、地産地消のエネルギーを地形を生かした大磯でつくろうと、若いママさんである岡部さん等が中心になって話し合いを重ね、昨年一般社団法人として発足した。第2号機は教会を予定している。

若いエネルギーシフトな力をもらえた一日だった。

（青柳節子）



藤沢市の大気汚染(NO2)の現状

昨年12月に市民が測定した二酸化窒素の藤沢市内13地区別結果をお知らせします。藤沢の空気を考える会がまとめました。平均は0.05PPMでした。冬は毎年ですが、今年の夏(平均0.035ppm)より汚染されています。

環境基準(0.04~0.06ppm以下)以内ですが、きれいとは言えません。対策が更に必要です。(青柳)

2013年12月藤沢市内 地区別NO2結果



ワースト 5

西用田バス停	0.26 ppm
城南柏山信号南側	0.21 ppm
大庭トンネル大庭側出口	0.20 ppm
用田の辻バス停	0.14 ppm
大庭トンネル城南入口	0.13 ppm



じじつのひとつぶ

杉山百合子

(前号のつづき)

原発と被災自治体 2———じじつのひとつぶ 09
猪苗代の農村地帯を走っていて、小山の壁に沿ってそびえる太いパイプを見て驚きました。東京電力の水力発電所です。東電は、福島県内に火力・水力発電所も持っています。その前の時代に首都圏のエネルギーを支えたのは常磐地域の炭鉱だったのです。原発に負けず劣らずの苛酷な労働だと聞く炭鉱のことを考えると、問題の根は原発云々ではないのではないかと思います。

一方で、廃炉を自分達の街に引き受ける覚悟を伺える話も知りました。浪江町の復興まちづくりを考える会議に、廃炉作業と共に生きてゆく街の将来像という案が出されたそうです。採択されるかどうかかわからないけれど、どれほどの苦しみと迷いと議論から絞り出された構想であるかと思うと頭が下がります。

全村避難となった飯館村には、藤沢にある日大生物資源科学部の教授が長年まちづくりに協力して来られました。原発を巡る議論の違いで関係が途切れてしまっているようですが。しかし、報道を見ると両者の対立を煽るように見えました。片方を断罪して溜飲を下げるのはジャーナリズムとは言えない。支援者も然り。対立を深めさせるような動きには自省を求めたい。

放射性廃棄物———じじつのひとつぶ 10
エコネットには、ごみの問題から参加しました。ちょうど、知人が東京の日の出村(当時)にいて、周辺三市一町のごみをまとめて処理するところがこの村にできる問題が起きていました。東京の水源地でもあるこの村に!?というわけです。

それで藤沢のごみ・資源の処理方法・行方など調べてニュースにしていきました。そのときも感じたのだけど、町のごみは町外れに、首都圏のごみは他地方へ、処理場が偏っている現実があります。有名どころでは、ゴミ島となってしまった香川県の豊島。もちろんこれは法律違反の事件だったけど、街中だったら起こりえ

(次ページにつづく)

なかった。藤沢のごみも青森などに運ばれていることがわかりました。そして今回の放射性廃棄物問題。

でもね、これも初めてじゃなかった。

例えばたまたま読んだ資料に、1990年代に大阪からいわきへ、放射性物質を含んだ産廃の処理場ができるというので問題になったと書いてありました。線量が低いから産廃扱いになったのかもしれないけど、こんな問題は調べればたくさんあったはず。

新たな問題では決してない。自らの足元を見つめることからもう一度考えたい。考えて下さい。(おわり)



放射能測定値

ふくしまつりフレッシュに使用した施設を測ってみました (7/27~7/30 晴)

(HORIBA Radi) 単位($\mu\text{Sv/h}$) 地上 50cm

こどもの国 入口	0.060
〃 入ってすぐのベンチ	0.062
〃 プールテント内	0.031
〃 プールサイド	0.029
〃 チャレンジサイクル乗場	0.062
〃 自然研修センター	0.053
少年の森 広場	0.035
〃 かわせみハウス	0.035
〃 アスレチック場	0.026
〃 炊事場	0.030
〃 駐車場	0.029

ECONET INFORMATION

フォト・ネイチャー湘南 写真展

8月12日(火)~17日(日) 10:00-19:00

藤沢市民ギャラリー (藤沢駅ルミネプラザ6F)

入場料 無料

藤沢エコネットニュース表紙に寄稿下さっている矢板さんの所属する会です

ECONET INFORMATION

藤沢探鳥クラブ講演会

「絶滅危惧種アホウドリの再生をめざして」

講師 長谷川博氏 (東邦大学名誉教授)

8月17日(日) 10:00-12:00

市民会館第2展示ホール 資料代 200円

問合せ 藤沢探鳥クラブ 藤山 0466-25-1817

「遺言」 原発さえなければ

福島3年を追ったドキュメンタリー

9月19日(金) 2回上映 10:00- 17:00-

横浜関内ホール(小ホール) 前売り券 1200

主催:「原爆と原発を考える」神奈川実行委員会

問合せ 090-7405-4276 090-8046-0925

藤沢エコネット

連続講座 第2回

「藤沢市の地球温暖化防止対策の現状とこれから」

地産地消エネルギーの取り組みなどを学習

どなたでも参加できます

講師 市環境総務課職員

8月31日(日) 10:00-12:00

市民会館第2会議室



会費・購読料の納入をお願いします

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 万ザコネット

(従来用紙の方法も利用できます)

会員募集=年会費・購読料→3000円

事務局会議 8月20日(水) 10:00~

湘南台市民活動推進プラザ

《編集後記》69年前の8月、2つの原爆を落とされた日本では3度目の被曝・ビキニの灰をあびた後、核兵器廃絶運動が始まった。2011年福島原発事故で4度目の被曝後、'NO NUKES'は日本各地に広がっている。5月21日から福島海へ基準以下の地下水を放出、度々基準を超え、廃炉の道は、はるか遠い。(A)